

東桂小だより

平成29年8月28日(月)発行 NO.5 発行責任者 野木 忠一

学校教育具体目標

- 知 進んで学ぶ子ども
- 徳 思いやりのある子ども
- 体 健康でたくましい子ども
- *知・徳・体の調和！
- *居心地のよい学校！

夏休みが終わり！2学期がスタート

夏休みが終わり、8月23日から2学期が始まりました。それぞれの子もたちが、思い出に残る夏休みを過ごしたようです。大きな事件・事故、怪我・病気もなく無事夏休みを終えることができました。地域・保護者の皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。

さて、2学期は多くの行事や教育活動が目白押しです。子どもたちは、その行事の取組みの中で多くの経験を積み、きっと大きく成長することでしょう。9月上旬からは、運動会の特別日課が始まり、いよいよ運動会の練習です。まだまだ暑い日が続いていますが、健康指導や安全指導をしながら、子どもたちが生き生き活動する姿を運動会当日にお見せできるように取組んでいきたいと思えます。

地域・保護者の皆様のご協力をお願いいたします。



2学期始業式！校長の話(抜粋)

夏休みが終わり今日から2学期がスタートします。まずは、皆さんの元気な顔が見られて嬉しいです。2学期は学校の中では一番長い学期で、大きな行事もたくさんあります。皆さん一人ひとり、1学期頑張れなかったことを努力してください。勉強のこと、友達とのこと、生活のこと、運動のことなどをバランスよく頑張ってもらいたいと思います。学校全体では、あたりまえ5箇条を守りながら居心地のよい学校づくりを進めていきましょう。

今年の夏は、台風の影響で都留市も大雨が降りました。避難をしたり被害をうけたりした人もいたようです。隣の犬伏市では、山崩れが起きて車の行き来もできなくなってしまいました。前の避難訓練でも話をしましたが、災害は「いつでも・どこでも・だれにでも」起こりうるものが、今回の台風で分かったと思います。学校で行われる今後の色々な訓練を、いざ災害が起こった時に自分の命を守るためにも真面目に真剣に行ってもらいたいと思います。

世界に目を向けますと、イギリスのロンドンで世界陸上が行われました。皆さんもテレビで観たと思いますが、日本チームがリレーで活躍する姿に感動しました。外国の選手は、日本選手より体も大きく力強いので、日本チームは技術(器用さ)で世界と勝負しました。日本チーム独特の「アンダーハンドパス」という方法で、練習を行い、本番でも早くスムーズにバトンの受け渡しができたのです。その結果、今回のような、素晴らしい成果がでたのではないかと感じました。

皆さんも2学期の一番大きな行事である運動会で、練習を頑張り、一人ひとりが輝き、見る人たちに感動を与えるような運動会にしていきたいと思います。

最後に、今日から始まる2学期が、皆さんにとって思い出に残るよい学期になることを期待しながら話を終わります。

(校長 野木)

夏休みのプール利用

今年度は、悪天候のため開設できない日もありましたが、11日間プールを開設することができました。のべ1,463名の児童がプールを利用しました。(一回平均69名が利用)子どもたちは安全に気をつけながら、思う存分水遊びをしたり泳ぎを上達させる努力をしたりして楽しんでいました。

保護者の皆さんにもプール監視役として、環境整備や監視でご協力をいただきました。お陰様で無事夏休みのプール開設を終えることができました。本当にありがとうございました。



夏休みの図書室利用

夏休み中に12日間図書室が開設され、全校で997冊(一日平均55冊)の貸出しがありました。子どもたちは夏休みも本をたくさん読むことができよかったですと思います。中には、図書室で勉強している人もいました。また、おばあちゃんが図書貸出に来ていただき、図書室の本を見てもらったりしました。家庭での読書推進のよい機会になったのではないのでしょうか。

もうすぐ読書の秋となります。読書で心にも栄養を与えましょう。



夏休みの作品

夏休みの宿題で、自由研究・工作・絵日記等を頑張ったようです。校内を回ってみると、その作品が展示・掲示してありました。どの作品にも個性があり、研究・制作過程での工夫や努力が感じられます。ご苦労様でした。また、今後、絵画や感想文等を応募先に届けていきます。多くの入賞があるとよいですね。

いずれにしても、夏休みの作品(宿題)よく頑張りました!!



～多忙化の実態について～

新聞等でも記事としてとりあげられていますが、今、学校現場の多忙化が益々進んでいます。

連合の労働時間調査によりますと、週60時間以上(一日12時間以上)働いている小学校教諭が72.9%、中学校教諭が86.9%であることが明らかになりました。また、中学校教諭の57%が過労死ラインギリギリで勤務していることに驚かされました。東桂小の実態も超過勤務が慢性化している状態にあると言えます。ほとんどの教職員が、朝早くから夜遅くまで勤務しています。では、なぜ学校現場は、そんなに忙しいのでしょうか。実態を次のようにまとめてみました。

1. 教材研究(少しでも分かりやすい授業づくり, 子どもを成長させる授業づくり)
2. 教材・教具の準備(子どもたちが見やすい, 学びやすい, わかりやすい教材教具の工夫準備)
3. プリント類の作成(授業にあわせたプリント作成, 繰り返し定着のためのプリント作成など)
4. 校務分掌の仕事(自分が受け持っている分掌の仕事, 例えば体育主任・研究主任の仕事など)
5. 生徒指導(問題が起こらないように予防する仕事, 問題行動等が起こった場合の仕事など)
6. 保護者対応(学校で起こったことについて説明する仕事, 連絡する仕事など)
7. 教育改革への対応(外国語と道徳の教科化へ準備, 教育課程の作成など)
8. 雑務(アンケートに答え提出する仕事, プリントを配布したり集めたりする仕事など)
9. 出張(教職員研修や会議, 市内行事等の打ち合わせなど)

主な仕事内容を紹介しましたが、子どもたちが学校にいる時間は、授業をしたり、様々な教育活動に対する指導・支援を行ったりしています。子どもたちが下校した後に、上記した仕事を毎日こなしています。本来の業務である授業づくりや学級づくりの研究や準備の仕事(上記の1~4)に加え、生徒指導・教育改革・雑務・出張(5~9)等への対応に時間がかかってしまうのが、現在の教育現場の実態です。

このような多忙化を解消するために、学校現場では、多忙化改善計画(行事の見直し・仕事の効率化・教育活動のスリム化など)を作成して取り組みを進めているところです。地域・保護者の皆さんにも学校の多忙化の実態を知っていただき、今後、様々な面でのご理解・ご協力をお願いいたします。